

復興計画推進のための次年度以降の取組みについて(案)

《町民協働の進行管理部会で頂いた次年度以降の体制についてのご意見》

- ・次回はもっと人数を絞っても良いと思う。(参加人数は日によって違うので最低限の人数は確保する)
- ・9分野をすべて討議するのではなく、特に問題となっている分野を絞って実施
- ・復興に向けて、第一歩が進んでいるので、一般的な意見を幅広く取り入れすぎるのはよくないのでは
- ・ジャンルによっては知識のある方を優先して選出することも必要と思う
- ・専門性と具体性を持たせた活動が必要であるので、専門的な知見をもった方に入っていただく
- ・国や県、町の職員にも立場を超えて一人の人間として参加いただくことが望ましい
- ・今回実施した協働を次に繋げてゆくことが必要

『浪江町復興計画【第一次】の進行管理についての提言』（平成25年11月 6日策定委員会から町へ提言）

5. これまで取り組んできた町民協働による検討をより一層充実・発展させていくためにも、町民の意向を反映していく中で、それぞれの分野の専門家の参画を推進し、専門的な見地からの意見も十分に取り入れていくこと。

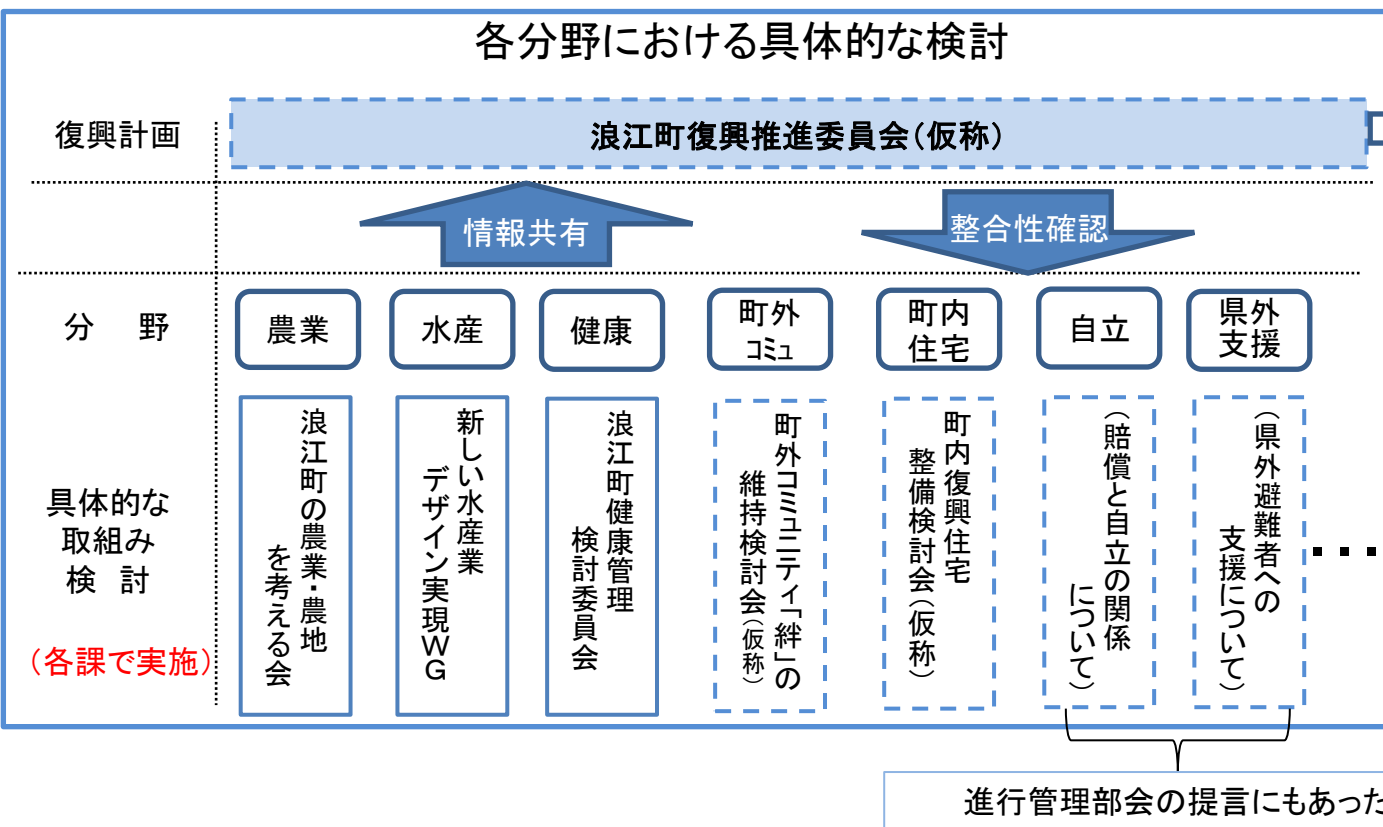
『浪江町復興まちづくり計画に係る提言(案)』（平成26年 3月20日策定委員会から町へ提言予定）

1. 本計画に定める取組みを推進するためには、行政だけでなく町民や町民団体、民間事業者、関係機関などあらゆる実施主体がまちづくりに取り組むことが必要である。そのため、専門家やNPOなどの協力を得ながら、多様な実施主体間の調整を行いまちづくりの推進を図ること。
2. 本計画は、「復興計画【第一次】に基づく平成29年3月を目標とした中期」において、避難指示解除に向けて必要な町内の取組みを中心に議論を行った結果であり、長期的に魅力あるまちをめざすための取組みや、居住制限区域、帰還困難区域における具体的な検討に至っていない。今後は、それらの点についても、復興計画との整合性をとりながら、個別・具体的に検討・実施を図ること。

次年度以降の取組み(案)

- 計画検討から具体策の実施検討の取組みへ
- 各分野における具体的な検討については、各課において組織している(設置を検討している)個別の検討会などで詳細を検討する。
- 各分野の具体的な検討についても“協働”での取組みに心がけ、それぞれが復興の担い手として一体となって議論していく。
- 専門的な知見を有する方を積極的に参画いただく。

～次年度以降の検討体制イメージ(案)～



・「復興を加速させること」が最大の目的。復興計画の着実な実施と課題解決のための改善策の検討

・分野ごと検討会等を組織しているものについては、復興計画との整合性について整理する。